

JFL・MIOびわこ滋賀 2選手「育成」に

知的障害者チーム支援

サッカー日本フットボールリーグ(JFL)のMIOびわこ滋賀(草津市若竹町)が知的障害者のサッカーチームを支援している。ボランティアで指導者を派遣しているほか、知的障害者サッカーの関西選抜に選ばれた2選手を今年からMIOの「育成選手」と位置づけ、競技力向上をサポート。2018年の知的障害者ワールドカップで日本代表を輩出するのが大きな目標だ。

県内パラスポーツ振興を

県内には、県障害者スポーツある。MIOが支援するのは、他チームの優秀な選手も集まる協会に登録している知的障害者甲賀市を拠点に活動する「Fリ、県の強化の場になりつつある。週1回の練習には

4年前、知的障害のある長男を持つMIOの権田五仁代表(49)がクラブの社会貢献を兼ね、コーチを連れて無償で教え始めた。「健常者に比べ複雑な練習メニューだと理

解できない選手もいる」といい、明快な指導を心掛ける。コミュニケーションを取るのが苦手な選手もいるため、頻繁に声掛けをする。

選手が上達する意欲を高めようと、1月の全国地域対抗選手権で関西選抜の優勝に貢献した橋本一騎選手(27)と日野町と遠藤選手(18)甲賀市をMIOの育成選手として迎え入れた。両選手に練習着を提供し、トップチームの基礎練習や試合運営にも加わってもらうという。

橋本選手は「MIOの一員になれて光栄。JFLの高いレベルの練習を体験できる」と喜ぶ。2年後にロシアである知的障害者ワールドカップを目指す遠藤選手は「MIOの支援で、あまり知られていない障害者サッカーが広まれば」と願う。

MIOは、両選手が日本代表を目指すうえで遠征費などが必要になった場合援助するという。FC滋賀の監督を務める権田代表は「サッカーを皮切りにさまざまな競技で障害者アスリートが活動しやすい環境をつくっていききたい」と、県内のパラスポーツ振興を模索している。(国貞仁志)



●MIOの育成選手としてコーチから練習着をもらう遠藤選手(右)と甲賀市信楽町・信楽運動公園●MIOのコーチから指導を受ける橋本選手(左)